

# 祝

都市計画道路荒瀬上田面線

岩谷橋と橋詰広場 完成記念イベント



☆日 時 令和5年12月25日(月) 午前10時から

☆場 所 岩谷橋(二戸市福岡地内)

## 《 次 第 》

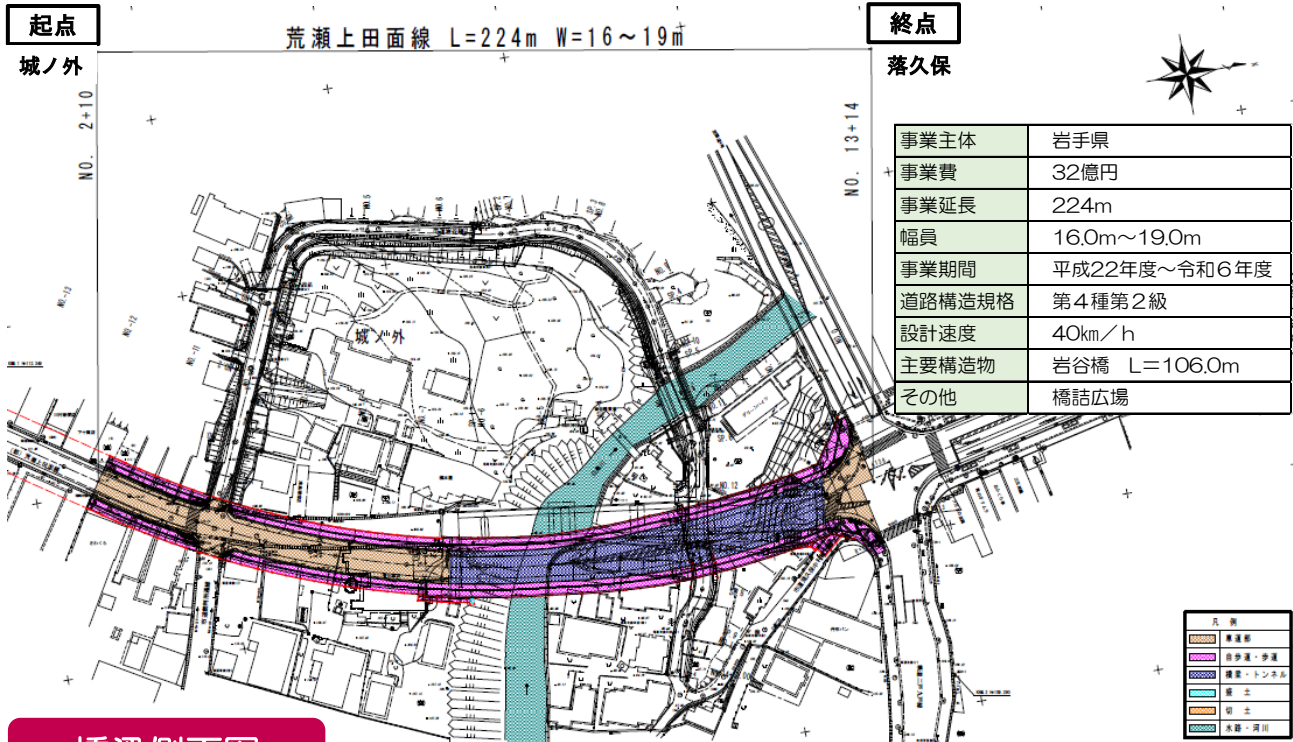
- 1 開 会
- 2 主催者挨拶  
県北広域振興局 局長
- 3 来賓祝辞  
二戸市長 藤 原 淳 様  
岩手県議会議員 五日市 王 様
- 4 事業経過報告  
県北広域振興局土木部 二戸土木センター所長
- 5 テープカット
- 6 橋詰広場の施設紹介
- 7 橋名板の紹介  
二戸市福岡小学校の児童の皆さん
- 8 記念撮影
- 9 閉会

主催 岩手県県北広域振興局土木部二戸土木センター

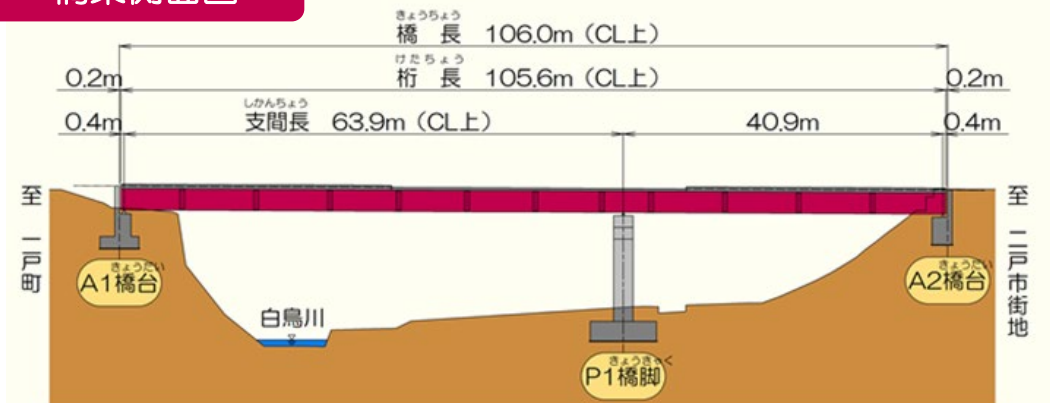
## 事業概要

当該箇所の落久保交差点は、二戸市の東西と南北の交通軸が交差する交通量の多い交差点ですが、右折レーンがなく、歩道も狭小であるため、岩谷橋の架替及び前後道路の線形改良、拡幅、交差点改良により、安全で安心な通行空間の確保と都市内道路の機能向上を図るため、平成22年度から事業に着手しました。

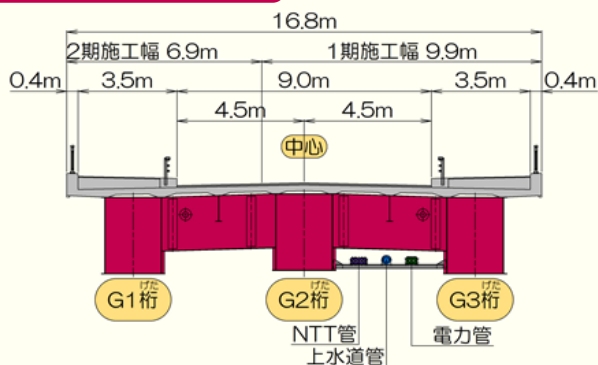
## 平面図



## 橋梁側面図



## 橋梁断面図



### 設計条件

橋長	L=106.0m (CL上)
形式	こうけいかんれんそくごうせいはこけたきょう 鋼2径間連続非合成箱桁橋
有効幅員	完成形 : W=16.000m~19.000m 暫定形 : W=9.000m

※ 交差点部は幅員 19.0m (右折レーンの新設)



## 施工状況

岩谷橋の架け替えにあたっては、迂回する仮橋の設置が困難なことから、部分的に仮の橋を設置するなど、車両や歩行者の通行を確保しながら、片側ずつ切り替えながら施工する必要があることから、難易度が高く、施工に時間がかかる工事でありました。

① 仮橋の設置 (2018. 5)



② 橋桁の設置【1期施工】 (2020. 9)



③ 旧橋と仮橋の撤去、橋台・橋脚の設置 (2022. 9)



④ 完成形 (施工中) 【2期施工】 (2023. 3)





# 岩谷橋景観計画

この橋の計画策定にあたっては、交通機能の向上とともに、景観との調和にも配慮することとし、「景観懇談会」や「詳細デザイン検討委員会」を始め地域の皆様からご意見をいただき、「自然や歴史を感じながら歩いて渡る橋」を基本コンセプトにしています。

岩谷橋景観ワークショップ (2012. 1)



岩谷橋景観懇談会 (2012. 3)



岩谷橋詳細デザイン検討委員会 (2018. 11)



## 「岩谷橋景観ワークショップ」ニュース

2012年1月 発行

岩谷橋景観ワークショップが1月21日(土)開催され、住民の方々や関係者約33名が参加し、グループワーク等を行いました。グループワークでは、地域景観の良い所・悪い所、現在の道路・岩谷橋の問題点、今後望まれる理想の景観について、様々な意見の交換を行いました。



## 岩谷橋景観計画提言書 (2012. 3)

### 提言書

岩谷橋は、二戸市の中心部にあって、馬淵川や白鳥川周辺の自然環境に恵まれているとともに、九戸城や岩谷観音、奥州街道といった歴史遺産が多く残された地に架かっている。このことから、岩谷橋の架け替えにあたっては、景観ワークショップにおける市民の声を踏まえ、自動車交通の安全を確保するとともに、歩行者が自然や歴史を感じながら「歩いて渡る橋」を基本コンセプト(概念)として整備することを提言する。

- (石造橋脚の活用)
- 明治21年に初めて架けられた岩谷橋の橋脚には、福岡城(九戸城)の石垣の石が使われたという説があるとともに、大正5年に改修された橋は二戸地域初の木鉄混合の大型橋梁とみられ、歴史遺産、土木遺産として、現在の橋脚の中にある石造橋脚の一部を保存するなど必要に応じてその石の活用を検討すること。
  - (橋梁の色彩) 岩谷橋は中学生や市民の多くが渡る橋であることから、高欄の色彩は周辺公共施設である福岡小学校や市民文化会館の壁面の色と近似する茶系色、桁の色彩は岩谷観音と調和する古代朱(二戸市章の色)を基本とすることが望ましい。
  - (観柱及び橋詰広場の設置) 岩谷橋は市街地であって岩谷観音や奥州街道の上を通り、橋上からは折爪馬仙峡自然公園の折爪岳を望むことができるとともに、馬淵川や白鳥川の眺望地点ともなっていることから、この橋の地域特性を活かし、観柱及び橋詰広場を設置することが望ましい。
  - (橋梁部の歩道) 橋梁部には、歩道と車道を分離するための歩道橋を設置するとともに、歩行者が愛着をもって渡ることができるよう歩行者専用の高欄を採用することが望ましい。なお、前項のとおり岩谷橋は、折爪岳や馬淵川等の眺望地点ともなっていることから、歩道面は車道部よりも一段高い構造とすることが望ましい。
  - (橋梁部の照明施設) 橋梁部の照明施設は、既存施設や高欄等と調和し、歩行者に身近に感じられるような青の低い照明灯を設置することが望ましい。
  - (道路部の歩道等) 城/外地区の歩道等の整備にあたっては、整備が完了している落久保地区の街並みとの連続性を考慮しながら、地域色のある整備をすることが望ましい。

平成 24年 3月 19日

都市計画道路荒瀬上田面線岩谷橋景観懇談会

会長 久慈 浩

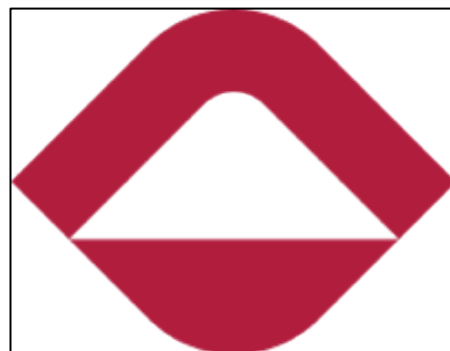


## 景観への配慮

岩谷橋の橋桁は二戸市章と同じ「古代朱」色に塗装し、高欄、照明灯、親柱の形状と色は景観に配慮したものとなっています。

また、大正時代の写真などを参考に復元した親柱を城ノ外地区側に設置し、歩道舗装には平板ブロックを用いることで落久保地区との連続性に配慮しています。

橋桁を二戸市章と同じ「古代朱」色に塗装



### 《二戸市の市章》

二戸市の「二ノハ」をモチーフに、豊かな自然と人間の融和、歴史文化の深さと安心が感じられる形と色彩により、活力のある安全安心な県北の拠点都市・二戸市の飛躍発展を表現しています。

転落防止柵を縦格子の形式で「木目調」の手すりを設置



歩道照明灯を2灯型式（和風吊り下げ）で設置



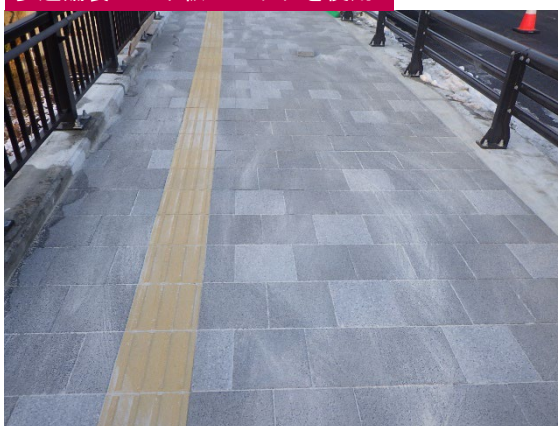
※ 高欄、照明灯は景観色「ダークブラウン」で統一

大正時代の写真などを参考に親柱を復元



※ 二戸市歴史民俗資料館の資料を参考に復元

歩道舗装には平板ブロックを使用

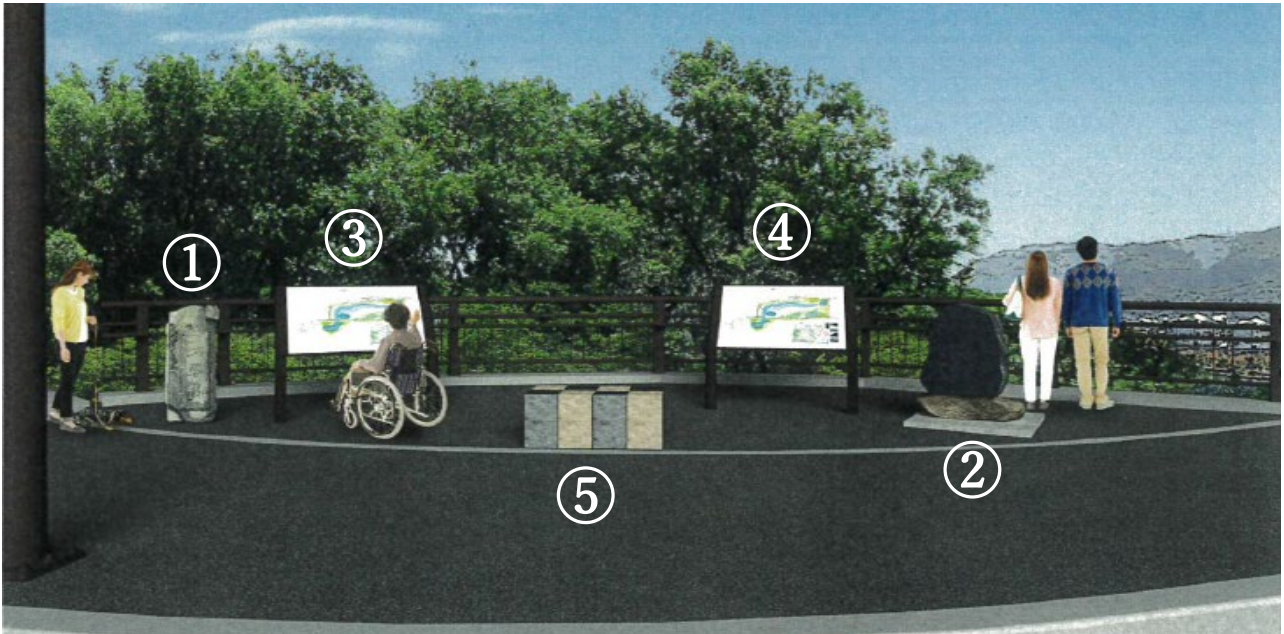




## 橋詰広場

岩谷橋は、市街地であって岩谷観音や奥州街道の上を通り、橋上は折爪岳や馬淵川の眺望地点であることから、岩谷橋の袂に、岩谷橋や周辺地域の歴史や観光の魅力を発信する施設として、県と二戸市が協力して橋詰広場を新設しました。

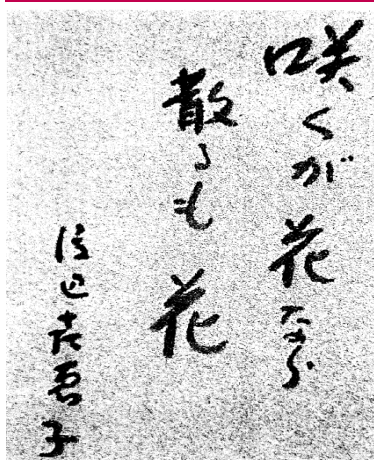
広場には、旧橋の親柱や二戸市ゆかりの作家による歌碑、岩谷橋の歴史や周辺の観光施設などを紹介する案内板などを設置しています。



①旧岩谷橋の親柱

②二戸市ゆかりの作家による歌碑

③岩谷橋の歴史を紹介する案内板



### 岩谷橋の歴史

【明治の岩谷橋】  
岩谷橋は、明治21年の開通後にも旧橋の位置に架けられました。丸太の橋脚を支える石で建設され、当時としては非常に画期的なもので、3本の橋脚と柱石の間にわたる連続橋脚の構造となっていました。  
下流に架かる、旧道とつながる奥州街道の沿河川に架けられている橋が10本の岩谷橋です。  
岩谷橋は自然の地形を活かしたものであり、昔からの歴史があり橋脚に地元の歴史が刻まれています。

【昭和の岩谷橋】  
昭和25年に近代橋として建設されました。旧橋は橋脚部分コンクリート製となり、下流の橋脚は旧橋の橋脚の一部をコンクリートで覆い、造り直されました。

【橋詰広場】  
橋詰広場は、旧橋の石積みを利用し、上部にある旧橋脚の跡になります。  
また、北平風刺刺し「元正の岩谷橋」の複製（複製版）を展示しています。  
明治・大正・昭和の歴史、今とつなぐ岩谷橋の石を、橋詰広場のベンチとして活用しています。旧橋を継承して見えてきたらに輝き、歴史を伝えていきます。

資料提供：二戸観光協会

④岩谷橋周辺ガイドマップ



⑤旧岩谷橋の石積み利用したベンチ





## コラム ～旧岩谷橋と石積みの調査～

初代岩谷橋は、明治21年の国道の開通にあわせ建設され、九戸城の外堀を渡るような形でした。

橋脚には、九戸城の石垣の一部が使われた（二戸市史に記載）と伝えられており、3本の橋脚に支えられた上部は木造で方杖形式のものでした。[右の写真]

2代目は上部工が朽ちたため、それまでの橋脚を再利用し大正5年アーチ形式に改修、3代目は昭和25年に橋脚を再々利用するため鉄筋補強+コンクリートで巻き立てをおこない、鋼単純非合成鈹桁橋に生まれ変わり令和3年10月まで二戸市民に親しまれました。

明治に竣工した初代岩谷橋は、工事請負人宅が落成式後火災にあい記録・写真が一切残っておらず、また昭和に補強した際の資料についても一切残されていませんでした。そのため新橋に暫定供用を開始した直後に旧橋の橋脚をボーリング調査し補強の状況や石積みについて調査しました。（しかし、石垣の有無までは確認できず…）



### 旧橋脚の撤去について

令和4年2月から旧岩谷橋橋脚撤去に取り掛かり、九戸城石垣の有無を確認するため慎重な作業が始まりました。

まずは、昭和25年に補強した際に嵩上げしたあたりをワイヤソーにてカット。

すると、コンクリート補強の内側に明治に建設したカラフルな石積みが出てきました。

整形された石であり、九戸城石垣は確認できず。



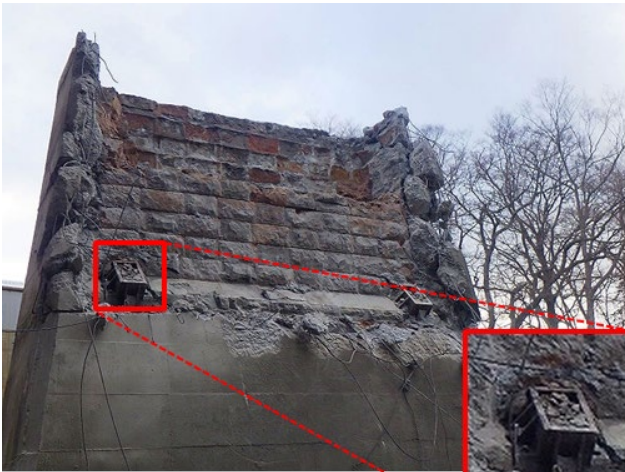
[橋脚上部カット後の状況]

※九戸城の石垣はのづら石です。（大きさが不揃い、加工していない石）

その後、ブレーカーで慎重に橋脚を取壊し。[下の写真]







取壊しを進めると大正時代に設置した支承が出現。これもそのまま補強の一部と一緒にコンクリートで巻き立てられていました。

取壊しを進め、二戸市文化財課に九戸城の石垣の有無を複数回立会していただきましたが、「九戸城の石垣ではない」との判断となりました。



取壊しを進めていくと、全て綺麗に加工された石でした。石と石の隙間はほとんどなく、職人の技量の高さが伺えるものでした。ブレイカーによる取壊しの際、コンクリートは容易に破壊できたのですが、内部の石積は隙間がないことからブレイカー先端が何度も弾かれ作業に時間を要するものでした。

再々利用した橋脚は3基あり、橋脚自体が20m程度の高さがあることから、当時どのような施工方法であったのか資料が残されていないのが残念です。

石積をよく見ると、ほぼすべてに記号が付されており、この石には「人+三」とあります。

二戸市文化財課によれば、「積む位置を示したもの」とのことでした。



#### 《旧岩谷橋の石積みの活用》

旧橋の撤去の際に出てきた石積みは、橋詰広場のベンチとして加工し活用しています。  
(加工後の写真は6ページに掲載)

(出典：美しい県土づくりニュース 令和4年5月号より)



## 橋名板の揮ごう

岩谷橋の高欄に取り付けられる4枚の「橋名板」は、今年、創立150周年を迎える福岡小学校の児童の皆さんに揮ごういただきました。

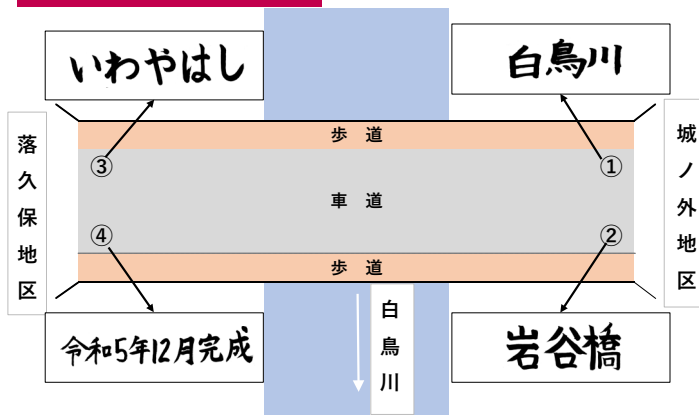
### 練習風景



### 集合写真



### 設置位置



### 《揮ごういただいた児童名》

- |             |     |      |
|-------------|-----|------|
| 「岩谷橋」       | 6の1 | 内田さん |
| 「いわや はし」    | 6の2 | 田村さん |
| 「白鳥川」       | 5の1 | 村川さん |
| 「令和5年12月完成」 | 5の2 | 宮崎さん |



## おわりに

岩谷橋の架け替え事業は、橋梁部の歩道舗装工事の一部が残るなど、引き続き工事を行う必要があるほか、橋梁につながる城ノ外地区の歩道整備や橋の下の盛土等の撤去などの工事は、令和6年度の施工となりますが、橋梁の車道部が完成することで課題となっていた交差点形状の改善と右折信号機付きの右折レーンが運用開始されたこと、また、橋詰広場が完成したことを節目とし、完成記念イベントを企画させていただきました。

事業に着手した平成22年度から今年で約14年の歳月と32億円余の事業費を要しているところですが、地域の皆様に、より一層愛される橋になるものと期待しています。

おわりに、本路線の整備にあたり、貴重な土地をご提供くださった地権者の皆様、二戸市や福岡小学校をはじめ地元関係機関・団体の皆様、施工業者の皆様にあらためて感謝を申し上げます。

改善前（変則五叉路）



改善後（十字路交差と右折レーン新設）



作成・編集 令和5年12月

岩手県県北広域振興局土木部二戸土木センター 道路整備課

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡 6-3

電話番号：0195-26-8173 ファクス番号：0195-22-1084

